いま、責任ある行動とは何かを考える

ヨーロッパと日本の視点から

HOW TO ACT RESPONSIBLY TODAY?
POLITICS OF LAW IN EUROPE AND JAPAN

CONFERENCE 2025

［主催］
公益財団法人 NIRA 総合研究開発機構

［主催／発案］
ジル・カンパニョーロ
（教授：フランス国立科学研究センター、パリ第1パンテオン・ソルボンヌ大学）

アドリエンヌ・サラ
（講師：早稲田大学）

赤坂インターシティコンファレンス（AICC）「the Amphitheater」
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 4F　https://aicc.tokyo/access/

［言語］英語（日本語同時通訳）　［定員］会場：80名／オンライン：200名　［参加費］無料

2025年4月26日 土

いま、
責任ある行動とは
何かを考える
ヨーロッパと日本の視点から
CONFERENCE 2025

13:45 開場

14:00 - 14:05 開会のご挨拶

14:05 - 15:35

パネル 1

責任ある行動とは何か――グローバルな視点から

［モデレーター］

■ ジル・カンパニョーロ（教授：フランス国立科学研究センター、パリ第1パンテオン・ソルボンヌ大学）

■ アドリエンヌ・サラ（講師：早稲田大学）

ヨーロッパや日本では、公共政策が法律や経済の理論をもとに作られています。こうした政策には、正義や利益、そして知識の限界といった問題があるため、科学的な根拠や専門的な知見が用いられています。法律が、人や企業の行動をどう規定するかは、世界の価値観や公共政策に影響を与えます。そして、ヨーロッパと日本がどのような価値観を共有するかにも関わってきます。気候変動や生物多様性の喪失において、人間、地域、企業にとって責任ある行動とは何かついてより深く議論することが求められています。

［パネリスト］

■ ラファエル・ランギヨン（研究者：フランス国立日本研究所）
「気候変動における地域の責任と地域計画」

■ 高江可奈子（助手：早稲田大学）
「人間中心主義を超えて――未来のための倫理的枠組みの再考」

■ マリー・エリフ（助教授：パリ第2パンテオン＝アサス大学）
「企業の責任――人道的危機の解決策となり得るのか？」

質疑応答

15:35 - 15:45 コーヒーブレイク

15:45 - 17:15

パネル 2

責任の枠組み――グローバル正義と民主主義の課題

［モデレーター］

■ 渡辺靖（教授：慶應義塾大学／上席研究員：NIRA 総研）

パネル2では、国際関係における「責任」の枠組みを検討し、特に世界の民主主義が直面する重大な脅威について議論します。討議では、先進国に対する批判、特にグローバルな課題への対応における独善性や二重基準といった指摘を取り上げます。議論を通じて、これらの議論を国際秩序の広い文脈に位置づけるとともに、比較的視点を踏まえつつ、これらの批判が示すジレンマにどのように対処するのが最善かを明らかにします。

［パネリスト］

■ イザベル・ジロドゥ（教授：東京大学）
「人新世と呼ばれる時代における責任の再考――法学者への挑戦的な思考実験なのか？」

■ 市原麻衣子（教授：一橋大学）
「民主主義の3つの異なる側面――価値、制度、イデオロギー」

■ 瀧川裕英（教授：東京大学）
「誰に対する責任か？　デモクラシーの限界と希望」

質疑応答

17:15 - 17:30 まとめ

お申し込み方法

会場・オンラインとも事前登録制となります。下記ウェブサイトからお申し込みください。

https://nira.or.jp/omnibus/event250426/index.html

お問合せ先

Tel：03-5448-1710（平日 10:00 ～ 17:00）　E-mail：niraforum@nira.or.jp